令和３年度第２回福岡市スポーツ推進審議会　議事録

＜開催日時＞　令和４年１月 18 日（火）　10：00～11：35

＜開催場所＞　アクロス福岡　６０８会議室

＜出席委員＞　１３名（欠席３名）

上和田 茂 会長、原田 清子 委員、山川 敦子 委員、
齋藤 光子 委員、安武 壽子 委員、西村 秀樹 委員、
兄井 彰 委員、早渕 仁美 委員、藤井 雅人 委員、
小森 貴一郎 委員、凧 慶一郎 委員、浦川 宣 委員、野口 修司 委員

＜説明のため出席した事務局職員＞　８名

奥田スポーツ推進部長、
平山スポーツ推進課長、島袋スポーツ施設課長、的野スポーツ事業課長、
ほか４名

＜議題及び報告事項＞

○ 議題　　福岡市スポーツ推進計画について

＜協議要旨＞

○ 開会

（事務局）

・本日の出席委員数は、全 16 名のうち、13 名で、委員の過半数を超えているため、福岡市スポーツ推進審議会条例第７条の規定に基づき、本日の会議が成立することを報告する。

○ 議題（１）福岡市スポーツ推進計画について

（会　長）

・それでは事務局から説明をお願いする。

（事務局）

・資料１、参考資料に基づき説明

（会　長）

・説明を踏まえ、意見交換させていただきたい。ご意見がある委員は、挙手の上、ご発言をお願いする。

（委　員）
・４ページの成果指標の基準値については、アンケート等をとったものか。アンケートであればその母数はどの程度のものか。

（事務局）
・成果指標のうち、「スポーツを「する」活動を週１回以上行っている市民の割合」、「福岡市はスポーツ観戦機会に恵まれた都市だと思う市民の割合」、「スポーツを「する」場や機会が身近にあると感じる市民の割合」については、市が毎年実施している市のアンケート調査の結果から把握している。
・続いて、「運動やスポーツを継続したいと思う児童・生徒の割合」については、国が毎年実施している「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果から、福岡市の数値を把握している。
・今回の基準値は、それぞれ令和元年度に行った調査からピックアップしたもので、母数については、市のアンケート調査が約 2,300 人、国の調査のうち市の数値は、小学生が１万 2,000 人程度、中学生が１万人程度となっている。

（委　員）
・４ページの目標２の成果指標については、７ページの２－１に対応した成果指標である。ただ、活力あるまちづくりの成果指標に注目すれば、どれだけ都市が活性化されたかという観点も大事なのではないか。

（事務局）
・都市の活力・魅力について、定量的に評価できる指標がなかなか見当たらないが、いただいたご意見を踏まえ、定性的なものを含めて、検討させていただければと思う。

（委　員）
・必ずしも数値で表れないような指標はある。例えば、経済効果で、どれだけお金が動いたか、どれだけ人が活動したかということで、活性化の明瞭な指標になると思う。ほかには、インフラ整備などの都市機能の増進やスポーツ産業の創出、人材の育成、また、象徴的な問題だが、ランドマーク、都市の顔とかシンボルとか、福岡市のアイデンティティを増強するなども考えられる。あと、健康長寿社会の実現とか、そういうことも入るのではないか。

（委　員）
・前計画の成果、課題を踏まえたうえで、今回の計画を策定することになると思う。今回記載されていないが、記載するならどんな内容とするのか。

（事務局）
・これまでの計画の取組みを進めていく中で、また新たに出てきたような視点など踏まえて、今後、現状と課題の整理をしたいと思っている。

（委　員）
・７ページの「２－２」について、先ほど言ったような定性的なものも検討していただければなと思う。
・目標１－３の「スポーツで地域のきずなづくり」についても、地域のきずなの創生を計る指標が必要なのではないかと思う。スポーツが、地域社会における住民間の日常において、共同、協力、相互扶助などの繋がり、きずなづくりに、どれだけ寄与したのかについては、捉えにくい問題で、これまで論議されてこなかった。ただ、スポーツの場面における繋がりが、日常生活において、どの程度、創生発展しているかが大事なことではないかと思う。

（事務局）
・指標については、目標としての成果指標と、現況、活動状況の把握や関連するような状況を示すためのものなど、目標とは違った形の示し方も含めて、検討させていただきたい。
・地域コミュニティについては、自治協議会、各校区のスポーツ推進委員、区と連携した取組みなど、いろいろな形があると思っている。その中で、地域の活性化にいかに繋げていくのかという視点については、ご意見を踏まえて検討していきたい。

（委　員）
・地域におけるスポーツについて、例えば子どもだと、少年団のチームなど地域に軸足を置くような組織があり、そこでスポーツをやることによって、地域との関わりとか、広がりによるきずながイメージできるが、ウォーキングや体操など、個人で行うスポーツは、地域のきずなを作り出すイメージができない。地域のきずなというと、組織の中でスポーツをやっている人が、そこから広がっていくというイメージがあるが、多様な主体との連携というところで、地域のきずなをつくり出していくという意図で書かれているのか。

（事務局）
・地域のスポーツについては、個人で楽しむスポーツのウォーキングやジョギングなどは、やってみたいスポーツの上位となっており、割と入りやすいところだと思う。ただ、一方で、少子高齢化や、共働きの進展などに伴って、地域活動というのが縮小している中で、スポーツというコンテンツを生かして、それを地域のきずなにつなげていく、みんなが集まって一緒に行うスポーツという

のはすごく価値あるものだと思っている。市には、各校区に公民館があり、スポーツをきっかけに、高齢者を含めて各年代が集まって楽しめるような場を作っていく、そうすることで顔が繋がって、コミュニティの形成、活性化にも繋がっていく、そういったきっかけづくりを推進していきたいということで記載している。

（委　員）
・いろいろな主体が協力して、きっかけとなるプログラムを行政側から提供し、それをきっかけとして、地域のきずなをつくり出していこうという意図でよいか。

（事務局）
・行政が一義的にできることがきっかけづくりであり、自発的に活動しやすいような支援などを、「ささえる」という視点で考えている。

（委　員）
・目標３－４については、どうやってやるかが一番肝になると思う。学習指導要領ではないが、する、みる、ささえる、「しる」ということがないと、実際やろうと思うと大変だと思う。具体的なビジョンはあるのか。

（事務局）
・行政側から市の施設の情報を出すことはできるが、民間や大学が持っている施設やサービスを、一元的に示すことができていない。どういうやり方があるかは課題として残るとは思うが、「公」だけじゃなく、民間、地域における機会、施設の情報を一元的にお示しできれば、スポーツをこれから始めたい方、利用したい方にとっても、充実に繋がると思っている。市の情報から少し幅を広げて、関連するような民間、大学などの情報も含めて、充実を図れないかとイメージしているところである。

（委　員）
・例えば、私の年代で、いまからスポーツを始めようと思うと、インターネットのサイトを見に行って、スポーツジムや公園など、施設情報を得ることはできるが、そこから一歩踏み出すためにどうするかがすごく難しいと思う。その情報を知って、実際に行動を起こすところまで、なかなかいかない。「しる」から先のもう一押しができるものがないか。ここを工夫できると、指標も高くなると思う。難しいと思うが、その点について少し考えていただければと思う。

（事務局）

・我々も課題意識を持っており、スポーツをしていない方、興味がない方に、一歩踏み出してもらうため、情報が持つ力はすごく大きいと思う。例えば、日常的にスポーツをやっている子は、体力以外の面でもこういうメリットがあるなど、やりたいという意欲を喚起するような、戦略的な広報の仕方についても研究していきたい。

（委　員）

・コミュニティでのスポーツ活動を通してのきずなづくりの話があったが、公民館の現場からすれば、運営面、例えば自治協議会や体育振興会、公民館でも、核となる人材がいないと難しいと思う。また、公民館としても、毎月２回運動教室をやっているが、参加者は同じ方が多く、面的に広がっていかない。来年度の事業計画を立てるうえで、この点も考える必要があると思う。

（事務局）

・公民館で、教室や事業を実施していただいているが、公民館の職員だけで、すべてを回していくのが現実的に難しい中で、核となる人材を見つける、それから育成するという視点が重要だと思う。各校区の中で、特定の人材の紹介など、個別の話は難しいところがあったとしても、その育成のお手伝いや、楽しんで参加できるような工夫を考えていきたい。

（委　員）

・スポーツに取り組むきっかけについて意見があった。各区の体育館でいろいろなスポーツの初心者教室が開催されているが、教室の実施のみで終わっている例が多い。私が初心者教室で指導をしていた時は、地域のスポーツクラブ等の連絡表を一覧にして参加者に配布していた。配布を認めていない体育館もあるが、スポーツを普及するための初心者教室であり、スポーツをやりたくて参加した人たちを、その場限りにせず、継続してもらうようにするのが、教室ではないのかと思っている。
・大濠公園では、朝６時半ぐらいになると、ウォーキングやランニングしている方が集まってラジオ体操をされており、そこでコミュニケーションをとっている。身近な地域の公園などで、誰かがリーダーになって、ラジオ体操を行い、コミュニケーションをとるという方法もいいのではないかと思う。

（事務局）

・教室やイベントを、１回限りの取組みで終わらせるのではなく、次に繋げていくことは大切な視点だと思う。これについては、まず楽しんで知っていただくきっかけと、継続的な習慣に繋げていくという視点も検討していきたい。

（委　員）

・６ページの目標１－２⑤部活動の地域移行等への対応について、国は、令和５年度から休日は地域に移行させる、平日は学校で短時間、２時間以内で部活動継続ということを言われている。先日、地域移行についての意見をまとめる県中体連の理事会があったのだが、各地区の理事の方の意見として、それぞれの地域の方と話をしたが、その地域における受け皿は今の段階ではなく、非常に厳しいという話となった。これを進めていくためには、相当な予算や人的な確保、競技団体や中体連、公民館等の連携が必要だと思うが、現状、どうすればいいかわからない状況がある。

（事務局）

・部活動の地域移行については、実際問題としてどういうふうにできるのか、その受け皿がどうなのか、そういったところがまだ見えないということが正直なところである。スポーツ推進の立場からは、部活動改革についても、子どもたちのスポーツ機会が後退してはいけないと思っており、いろいろな見直しの中でも、子どもたちのスポーツの推進や機会をつくっていく視点を踏まえ、我々ができる支援などを考えていきたい。

（委　員）

・先ほどの初心者教室について、自主的に活動を続けようとして、公民館に活動場所の提供の相談があるが、すでにいっぱいで受け入れたくても場所がなく難しい。目標３－３①にあるスポーツ活動の場の充実をぜひ図って欲しい。

（事務局）

・スポーツ活動の場の充実については、ハード的なものから、機会等のソフト的なものが含まれるが、市のスポーツ施設については、すぐに公共として増やしていこうというのは、正直難しい面がある。例えば、民間、大学の施設や身近な公園、身近な場所でできるスポーツであるとか、市だけではなく、多角的な面で場や機会を充実させていきたいと思っている。

（委　員）

・部活動の地域移行に関しては、先ほど説明があったように、教員の働き方改革が第一であり、例として、食育活動では、地域の方が教員の支援に関わっておられたので、そういう流れの中で、地域移行の考え方も出てきたのだと受けとめていた。ただ、地域格差も大きいと思うし、現場の学校が担っている人材育成のなかのスポーツ推進や教育的な視点というのも大事だと思うので、いろいろ工夫していただけるといいなと思う。

・これからの超高齢社会を考えると、非活動的になる超高齢者にとって体を動か

すことは、健康づくりに欠かせないものだと思う。超高齢者がスポーツをする、してもらう環境づくりは行政の大きな役割になると思うし、自治体の予算面でも、支えになると思う。先ほど大濠公園の話があったが、子どもの頃に、決まった時間に集まってラジオ体操を行っていたように、超高齢者についても同じような拠点づくりができるといいのかなと思う。このスポーツ推進計画ができると同時に、モデル事業をするなど、この計画の中に何らかの形で入ってくると、これからの健康づくりにとってとても心強いと思う。

（事務局）

・好事例として紹介をさせていただくなど、情報として出すこともできると思う。モデル事業については、具体的なモデルケースをつくりながら好事例を広げていくという視点も踏まえて考えていきたいと思う。

・健康づくりについては、これからの超高齢社会を踏まえて、スポーツをやっていない方に勧めていくには、どういうやり方があるのか、行政だけでできない場合に、民間であるとか、地域の方とか巻き込みながら、どういう仕組みだったらうまくいくような事例が増えていくのか、重要な視点だと思っている。

（委　員）

・本日、ももち体育館で、市スポーツ協会の指導員を招き、女性スポーツ活動団体の研修会として、自宅でできる体ほぐし、ストレッチを実施する。汗をかくスポーツだけではなく、家でできるようなものなど、今のコロナ下に限らず、その時々の状況に応じた取り組みが大事だと思う。

（事務局）

・行政としても、そういう活動状況を、多くの人に知っていただくような情報発信を行う役割というのが重要だと思う。情報発信の強化の一つにもあるが、スポーツの実施に繋がるような視点で、好事例の紹介など検討していきたいと思う。

（委　員）

・今の好事例の話と逆行する意見だが、ラジオ体操を公園で朝６時半からすることを、近くに住んでいるマンションの方から騒音として捉えられ苦情が来て、回数も期間も限定されている状況がある。時間設定等もあるかと思うが、事例を紹介する場合は、こういう苦情もあるということもを含めて紹介するべきである。健康寿命を伸ばす視点はすごく大事なことだと思うが、それを騒音と感じる世代もたくさんいるというところを視野に入れて検討していただければと思う。

（事務局）
・好事例を紹介する場合は、マナー向上などの対応策を含めて考えていきたいと思う。

（委　員）
・障がい者スポーツの推進について、スポーツ活動に参加していただく手法、サークル活動に対するスポーツ活動の場の提供と人材育成、活動費などお金の問題など、課題を感じている。目標３－１①公共スポーツ施設の利便性向上と計画的な維持管理について、利便性の向上はより使いやすくすること、計画的な維持管理とは、施設の延命ということなのか教えていただきたい。
・目標３－３②のスポーツに関する人材育成について、障がい者スポーツ協会は、指導者がそんなに多くはなく、支えているのはボランティアの方々である。技術的な特性を持ってなくても手伝いをしたいという方が、結構いらっしゃる。重要だと思うので、ボランティアの充実についても、少し入れていただければ思う。

（事務局）
・まず、利便性向上については、それぞれ施設について建設からの年数や利用者のニーズなど、様々だと思うが、計画の中で、財政面も踏まえながら、各施設の状況に応じて可能な限り対応していくということである。維持管理については、ライフサイクルコストなどを考えながら、安全に施設としてのサービスを提供していくことが大切な視点だと思うので、これについては、場当たり的な対応ではなくて、アセットマネジメントの考え方に基づきながら、計画的に機能を維持していく視点で検討していく必要があると考えている。
・人材の育成については、指導者の人材の確保、育成やボランティアの確保は、重要な視点だと考えている。スポーツ部門だけではなくて、教育委員会や保健福祉局など含めて、全市的な目標として充実を図っていけるような視点で盛り込んでいきたいと思う。

（委　員）
・障がい者スポーツのデータを見るときに思うことがあって、障がい者の方がスポーツをしている状況を把握するのは、来られた方にアンケート調査することができると思うが、例えば、障がい者の方で運動から遠ざかっていて、あんまりスポーツに縁がない方が、スポーツについてどう考えているのかとか、課題や要望を捉えることは難しいのかなと思う。スポーツから遠ざかっている方をいかにスポーツに近づけていくかということが重要だと思うが、大学の研究においてアンケート調査をするときも、障がい者の方など、意向が聞き取れない方の現状を把握するのが一番難しいと感じている。そういう声なき声みたいな

ものを捉えられないと、こういう計画を立てるのはなかなか難しいのかなと思うが、そういう声を捉える術はあるのかお伺いしたい。

（委　員）
・我々も、その把握が難しいので、よく頭を痛めている。協会に相談に来る方についての意識であればわかるのだが、あまり話さないサイレントの方たちをどうするかが一番の課題だと思っている。一つの方法としては、特別支援学校や関係機関との連携を活かして把握する方法が考えられるのではないかと思う。

（事務局）
・障がい者スポーツについては、我々も実態把握というのはなかなか難しいところがあり、国の計画で、週１回以上スポーツをする割合の目標を障がい者の方については40％としている。その実態については、インターネットの無作為調査した結果で把握されている。ただ、国の調査では自治体ごとの数値がなく、また、いろいろな障がいがある中で、どういうふうに把握したらいいのか難しいところがある。計画を推進していく中で、障がい者スポーツの実態把握について、関係部局と連携しながら、どういったやり方があるのか、検討していきたい。

（委　員）
・障がいがある方が通所する施設に勤めているが、県から、アンケート調査の協力依頼を受けることがある。例えばスポーツに関することや、公共交通機関を使って困っていることがないかなど、スタッフが協力してアンケートの回答を行っており、市が調査をする場合についても、協力できるのではないかと思う。

（委　員）
・障がいがある方のスポーツについては、いろいろな状況があると思う。夫が、ふくふくプラザの３階で、自助具づくりのボランティアを２０年程行っており、障がいがある方の要望を受け、日頃の生活が楽にできるようなものを作っている。スポーツの実施のためより、障がいがある方が快適に生活できるような仕組みを作るほうが、私は先ではないかなと思う。

（事務局）
・障がいがある方に関しては、生活支援や活動支援を含めて、いろんな視点があると思う。それぞれの障がいの状況に合わせて、できることをいかに進めていくかということだと思うので、障がい者スポーツ、イコール競技という視点ではなく、もう少し身近でできるようなこと、それが理想的には、障がいの状況、年代、環境に応じて、紹介できるようになればいいなと思っているが、まずは

できることを保健福祉局と連携しながら考えていきたいと思う。

（会　長）
・他にないか。それでは、これをもって本日の審議会を終了する。

○ 会議終了